

広島東洋カープ



エース・黒田の残留決まるも先発の補強、底上げは必要
若手台頭で世代交代の時期 捕手は固定して礎を築け！

若手の底上げに期待

昨年は4・93だった救援防御率が今年は3・42。なかには誤算もあったものの、ブラウン監督の手腕によって、リリーフ陣は結果的にしっかりと整備された。

当初はペイルを抑えにする構想だったが、不調に終わると永川を抜擢。すると永川は過去2年の低迷から復活し、27セーブをマーク。防御率は1点台で、毎試合のようにピンチを拓きながらも要所は締めていた。中継ぎでは林、横山、梅津が機能し、左も高橋、広池が奮闘。盤石ではないまでも、ひとつの目処は立ったといえる。

問題は先発陣。FAによる移籍濃厚とみられていた黒田は残留が決まり、エース不在の危機はまぬかれた。それでも、実績ある投手が少ない現状に変わりなく、今季

前半戦だけで9勝のタグラスも故障で離脱しただけに不安が残る。このオフはさらなる外国人補強が必須という状況だ。

その一方で当然、今季は6勝に終わった大竹の復調も不可欠だが、投球内容を変えてきた若手の台頭も期待される。というのは終盤にプロ初勝利を挙げた斎藤、もしくは小島、梅原も含め、微妙に変化するボールを身に付けた投手が多くなっている。これは米球界では一般的なツーシーム、カットファストボールで、おそらくブラウン監督の方針もあるのだろう。確かに効果が出ている部分はある、全体に底上げが見込めるかもしれない。もともと、それはあくまでひとつの方法であって、急に大化けできる投手が出るとは考えにくい。まずは来季、各投手の結果にどれだけつながるかだ。

歳となる緒方の存在。同じ外野手で森笠、廣瀬が着実に力をつけているなか、世代交代を推し進めてもいはず。もちろん、本人たちの成長次第だが、長期的視野でチームづくりをしていく以上、思い切った決断は必要だろう。

には目立つ特徴がなかったなか、進塁打率はリーグ1位。犠打を含む率は中日に次いで2位と、走者を進めることはできていた。が、それでもチーム得点数は最下位。1、2番の打率、出塁率が低いことをはじめ、得点力を増すためには改善の余地ありだ。

主な戦力と成績

名前	ドラフト	成績					
主な先発							
黒田博樹	96・2	登板26	投球回189.1	防御率1.85	13勝6敗1S	三振144	
大竹寛	01・1	登板30	投球回157	防御率4.93	6勝13敗	三振110	
佐々岡真司	89・1	登板37	投球回149.2	防御率4.09	8勝8敗	三振82	
ロマノ	外国人	登板31	投球回103.2	防御率5.64	5勝9敗	三振65	
タグラス	外国人	登板20	投球回97.2	防御率3.41	9勝6敗	三振71	
長谷川昌幸	95・1	登板29	投球回54.2	防御率3.95	1勝3敗	三振57	
主なリリーフ							
永川勝浩	02・自由枠	登板65	投球回70.2	防御率1.66	5勝6敗27S	三振86	
ペイル	外国人	登板30	投球回43	防御率2.93	1勝2敗6S	三振46	
高橋健	94・4	登板54	投球回46	防御率4.70	2勝3敗	三振40	
林昌樹	97・3	登板61	投球回65.1	防御率3.58	2勝4敗	三振44	
広池浩司	98・8	登板77	投球回59	防御率3.20	4勝2敗	三振35	
横山竜士	94・5	登板48	投球回55.2	防御率4.85	4勝5敗1S	三振53	
佐竹健太	99・5	登板32	投球回32.1	防御率4.73	1勝2敗	三振23	
梅津智弘	04・6	登板23	投球回22	防御率1.23	0勝0敗1S	三振23	
捕手							
石原慶幸	01・4	試合85	打率.221	本塁打3	打点11	盗塁2	
倉義和	97・5	試合84	打率.239	本塁打5	打点14	盗塁1	
主な野手							
(1B) 栗原健太	99・3	試合101	打率.295	本塁打20	打点69	盗塁1	
(2B) 東出輝裕	98・1	試合138	打率.282	本塁打0	打点23	盗塁11	
(3B) 新井貴浩	98・6	試合146	打率.299	本塁打25	打点100	盗塁1	
(SS) 梵英心	05・大社3	試合123	打率.289	本塁打8	打点36	盗塁13	
浅井樹	89・7	試合43	打率.222	本塁打0	打点4	盗塁2	
松本高明	02・5	試合67	打率.259	本塁打0	打点6	盗塁8	
山崎浩司	オリックス	試合27	打率.111	本塁打0	打点1	盗塁0	
(LF) 前田智徳	89・4	試合134	打率.314	本塁打23	打点75	盗塁2	
(CF) 緒方亨市	86・3	試合81	打率.284	本塁打6	打点29	盗塁2	
(RF) 嶋重章	94・2	試合128	打率.269	本塁打24	打点69	盗塁2	
井生崇光	98・2	試合74	打率.268	本塁打0	打点8	盗塁1	
末永真史	99・4	試合54	打率.281	本塁打2	打点9	盗塁2	
廣瀬純	00・2	試合84	打率.290	本塁打5	打点29	盗塁4	
森笠繁	98・4	試合115	打率.292	本塁打6	打点31	盗塁1	

内野はさらなる強化を

シーズンを通して石原、倉が併用されていた捕手陣。ほぼ同じ試合数、打席数で、そこまで均等に分ける根拠が感じられなかった。そのなかで、打力のある石原が打率を上げてしまい、倉はリード面がいいところがあった。まして、去年は4割を超えた盗塁阻止率は2割台後半に下降したのはマイナスマチ。来季は競争意識を高める意味で、まずはどちらかよりよい捕手を固定すべきでは？

内野の失策数は今季もリーグ最下位。それでも、昨年の89個から67個と改善されている。これは二遊間がある程度、東出、梵で固まった効果もあるだろう。ただ、梵はエラーが多く、両サイドの新井、栗原はまだ改善の余地あり。一方、外野は控えも含めて層が厚く、特別な不安はない。

データスタジアムの目

昨年の広島投手陣は与四球数が55.7。リーグ唯一の500台で、それが失点の多さにつながっていた。そこでブラウン監督は四球数を減らすため、極力、ストライク勝負する配球をバッテリーに徹底。結果的に38.2にまで減ったのは好転といえるだろう。ただし、ストライク勝負の弊害が、左表のとおり本塁打による失点が多かった。確かに、本拠地が狭く仕方ない面もあるが、同じく狭い本拠地のヤクルトはリーグでも少ないはずで、10パーセントでも減らしたら、戦い方も変わるだろう。まずは低めの投球を徹底したい。

投手陣の充実度		投手陣の成績		
先発	右	左	防御率 3.96	被本塁打171
中継ぎ	右	左	勝 62	与四球 382
抑え	右	左	負 79	与死球 46
			セーブ 36	奪三振 957
			投球回1284.2	失点 648
			被安打 1304	自責点 565

野手陣の充実度			野手陣の成績		
打力	機動力		打率 .266	打点 526	
捕手	内野手	外野手	得点 549	盗塁 54	
			安打 1318	犠打 95	
			二塁打 173	四球 282	
			三塁打 19	死球 54	
			本塁打 127	三振 963	

退団予定選手リスト (10月31日現在)	
< 投手 >	天野浩一 / 飯田宏行 / 玉山健太 / 苦米地 鉄人 / ペイル / ロマノ
< 捕手 >	鈴衛佑規
< 内野手 >	浅井樹 / 福井敬治

本塁打による失点数			
チーム	本塁打失点	全失点	割合
阪神	143	508	28%
中日	171	496	34%
ヤクルト	209	642	33%
巨人	218	592	37%
横浜	242	662	37%
広島	278	648	43%

打線は改善の余地あり

開幕当初は1番・緒方、2番・前田と、過去には考えられなかった打順でスタート。ブラウン監督ならではの構想だったが、機能しないとなるとすぐに切り替えた。最終的には緒方の負傷離脱後、復調した東出、ルーキーの梵で1、2番を固定。結果、梵が2割9分近い打率を残したのは収穫だった。また、クリーンアップは嶋、

新井、前田で落ち着き

00打点をマークした以上に、3割寸前の打率を残したのは明るい材料だ。若干の懸念は、嶋の打率が2年続きで下降傾向にあること。ゆえに来季、故障離脱したものの成長を遂げた栗原が5番、3割は確実な前田が3番、という打順がベストになる可能性もある。もうひとつの懸念は、来年で39

高校生ドラフト採点

85点

伝統の「信用」指名で前田開幕ローテの可能性あり？

意外な少数指名

基本的なドラフト戦略として、身体能力と野球センスにすぐれた広島入団を希望する高校生を中心に獲得して、時間をかけて戦力の中核に育成する。このポリシーを長く堅持してきた広島です。

これは「赤ヘル軍団」と呼ばれて日本一になった時代からのチームの伝統ともいえます。

当時の広島を支えた鉄人・衣笠

1巡目

前田 健太
マエダ・ケンタ

投手

PL学園
182cm
72kg
右投右打

3巡目

會澤 翼
アイザワ・ツバサ

捕手

水戸短大付
177cm
85kg
右投右打

祥雄選手も平安高出身、当時は173センチ70キロの小柄な捕手でした。練習を見に行つたスカウトがヒュンヒュン振り回している彼のバットをヒョイと手にして、あまりの重さにこの選手のリストと腕つぶしの強さに驚いたと聞いています。

その意味で、今年の高校生指名が2名というのは意外でした。

しかし、たとえバウエーパーで2つ前の横浜が抽選で田中を獲得していれば、横浜3巡目指名の梶谷は最初の思惑通り広島に3巡目になっていったでしょう。

そつした「ドラフトのあや」で指名の人数も結果的に増減されるのがドラフトの一面でもあります。

毎年、早くから1巡指名を公表して、しかもその「約束」をたがえないのが広島。「ドラフトの伝統」であり、そのことがアマチュア球界の信用も得ているとも言えるのではないのでしょうか。

野球シーズン開幕前の3月中旬に、当時日本体育大の山内泰幸（現2重コーチ）の獲得を発表したのはもう10年以上前のこと。今も鮮烈な印象として残っています。

前田は体も球速も上昇中！

今年の1巡目指名・前田を公表したのも、春のセンバツが終わった直後くらいだったでしょう。

無類の練習熱心で、140キロ台のストレートを自在にコントロールでき、しかも今は稀少価値になった一度ホップしてから垂直に落ちるカーブを持った本格派。このボール、堀内恒夫（元巨人）の快投を知っているファンなら、きっと「ドロップ」と表現したくなるでしょう。

いかにも玄人受けしそうな前田。競合必至と思われたこの投手を単独指名に持ち込んだのも、おそらくは広島スカウト陣の地道な活動と誠意が通じたのではないのでしょうか。

完成度が高く、しかし体はまだまだ成長中でスピードも150キロ目にかけてなおも上昇中。1年目の後半から、いやひょっとしたら開幕から今年の平野オリツクスのような活躍を見せてくれるのでは、期待がふくらみます。

3巡目指名の會澤の強肩はずでにプロ級でしょう。地面に叩きつけるように投げて、うまく指にかかったときは、二塁の直前でホップします。

長打力もフリーバッティングを見たら、ほればれするような飛距離と放物線の軌跡。屈強な体を持ち、いかに広島で鍛えてほしいタイプの選手です。

課題は、力任せの野球からどれだけキメの細かい野球ができるようになるか。捕手ですからなおさらでしょう。技術の勉強もさることながら、これは本人の意識の問題だと思えます。

大学生・社会人ドラフトのポイント

要右先発+左セットアップ
スモールボール向き野手を
希望枠で、ベテラン新人、宮崎

F A宣言 阪神移籍

悩みに悩んだ黒田の広島残留表明がドラフトの2週間前。「育ててくれたカーブを相手に目いっぱいボールを投げる自信が正直なかった」

阪神・黒田として広島に投げるのは、広島・黒田を否定することだったのかもしれない。

ホンダ鈴鹿

宮崎 充登

"若いベテラン" 投手。プロでの投げ始めは29歳になるが「旬」は今！

希望枠でいち早く手を打つたホンダ鈴鹿・宮崎は戦力として投げる来年は29歳、20歳台後半になつても、グングン球速アップした珍しいタイプの投手。筋力トレーニングや栄養摂取の概念が浸透してきた最近では、ベテラン社会人選手の野球が若くなっていきます。その意味では、この投手の「旬」は今なのかもしれません。

先発型の右投手と、試合を作る左腕も必要な状態です。

完投できるスタミナがあり、4種類以上の球種と140キロ台のスピード。構えたミットに7割方決められるコントロール。こんな条件をなんとかクリアできるのは、上園（武蔵大）、小迫（東北福祉大）、糸数（亜細亜大）。

相手打線ひと回り抑えられる左腕なら、森福（シタックス）、青木（口産自動車）に高尾（ニチダイ）、高尾のメラメラと燃えて投げる速球とスライダーには、叩き上げた負けじ魂がこもっています。

希望枠でいち早く手を打つたホンダ鈴鹿・宮崎は戦力として投げる来年は29歳、20歳台後半になつても、グングン球速アップした珍しいタイプの投手。筋力トレーニングや栄養摂取の概念が浸透してきた最近では、ベテラン社会人選手の野球が若くなっていきます。その意味では、この投手の「旬」は今なのかもしれません。

駒澤大 野本 圭

今秋リーグ5弾を放って長距離砲の気配。大学時代の金本（阪神）に雰囲気似ている

広くなる新球場に合う外野手を

いわゆるスモール・ベースボール向きの選手が優秀なのは、広島の伝統でしょう。広島球団史に名を残す山本浩二、衣笠祥雄、2人の大打者はむしろ例外的な存在と言えそうです。

今のチーム構成も、若手で走者を返す主軸タイプといえるのは、新井と栗原だけ。

長いのが打てる大型スラッガーに照準を合わせているのではないのでしょうか。

新装なる新・広島球場に雄大なアーチをかけてほしい神戸（流通経済大）に、横川（青山学院大）とともに、外野守備も球際に強く

柔軟にこなす選手たち。

地元出身では、今秋リーグ5弾をマークして長距離砲の気配を見せ始めた野本（岡山山高 駒澤大）。ちょっとだけ、東北福祉大時代の金本（阪神）に雰囲気似てきました。

本来天才のはずの東出がようやく本気になったのが、ベストイン候補になるほど上手くなって、新人・梵との26歳二遊間コンビが確立しました。

二遊間コンビをもう1ユニット。福田（トヨタ自動車）と大城（TDK千曲川）。

沖繩の高校野球で鍛えて、長野の社会人で磨きかけたスモール・ベースボール。身体能力とスピードは抜群です。

= 指名が予想される選手 = 編集部のおすすめ選手

- 宮崎充登（投手・ホンダ鈴鹿）
- 神戸拓光（外野手・流通経済大）
- 高尾昌明（投手・ニチダイ）
- 上園啓史（投手・武蔵大）
- 福田康一（遊撃手・トヨタ自動車）
- 大城祐二（遊撃手・TDK千曲川）
- 横川史学（外野手・青山学院大）
- 野本圭（外野手・駒澤大）